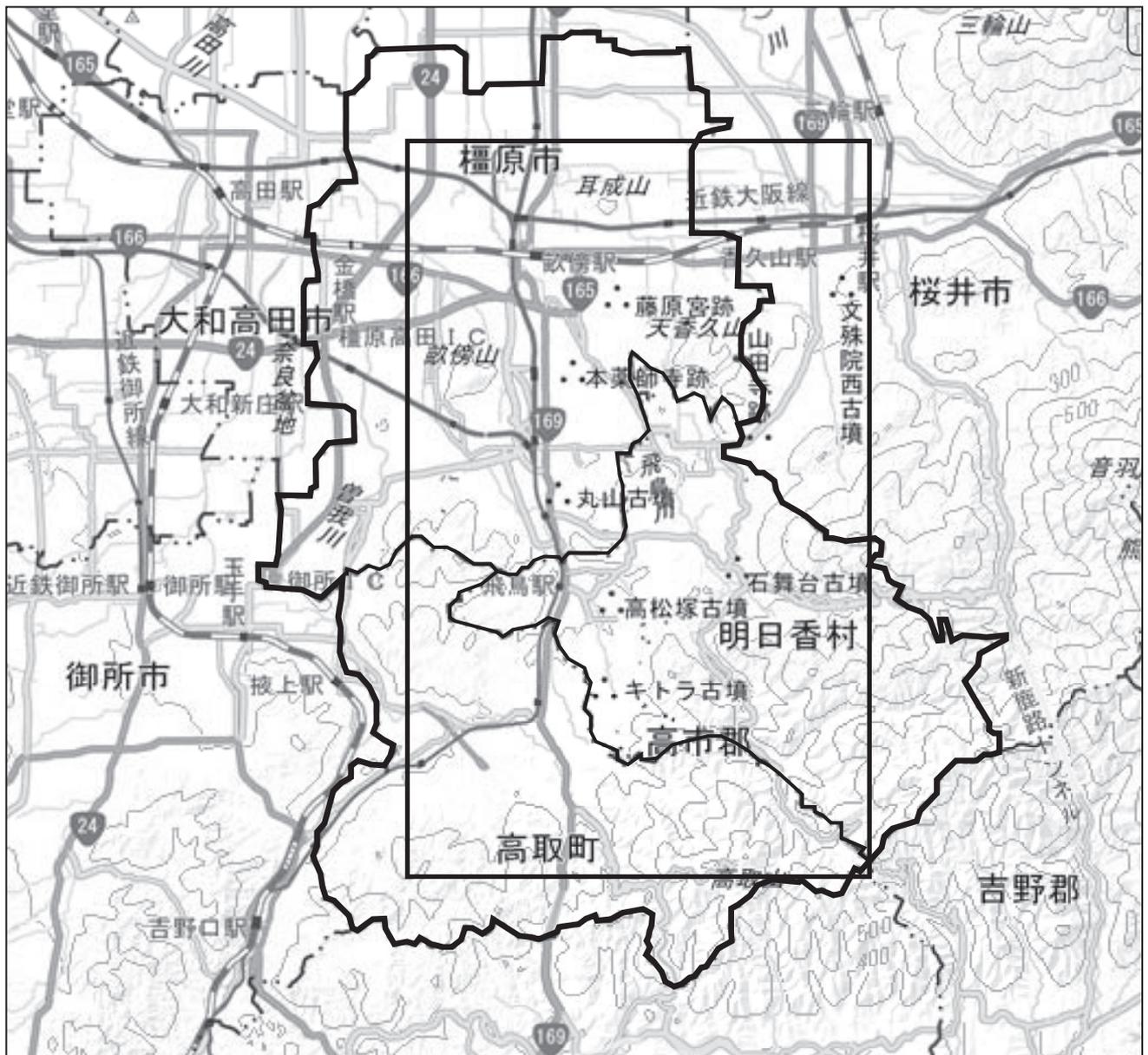


① 申請者	橿原市・高取町・ ◎明日香村	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル				
「日本国創成のとき ～飛鳥を翔(かけ)た女性たち～」				
④ ストーリーの概要(200字程度)				
<p>日本が「国家」として歩み始めた飛鳥時代。この日本の黎明期を牽引したのは女性であった。</p> <p>この時代の天皇の半数は女帝であり、彼女たちの手によって、新たな都の造営、外交、大宝律令を始めとする法制度の整備が実現された。また、文化面では、女流歌人が感性豊かな和歌を高らかに詠い上げ、宗教面では、尼僧が仏教の教えを広め、発展させるなど、政治・文化・宗教の各方面で女性が我が国の新しい“かたち”を産み出し、成熟させていった。</p> <p>日本国創成の地である飛鳥は、日本史上、女性が最も力強く活躍した場所であり、その痕跡が色濃く残る地である。</p>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名	明日香村教育委員会文化財課			
電 話	0744-54-5600	FAX	0744-54-5602	
住 所	〒634-0141 奈良県高市郡明日香村大字川原91-3 明日香村教育委員会 文化財課			

橿原市、高取町、明日香村の位置図



ストーリー

古代飛鳥は女性を受容した新進の時代であったと言っても過言ではない。複数の女帝が誕生し、豊かな感性で、政治にかかわったのも古代飛鳥であり、宗教や文学においても女性たちの活躍を抜きにしては語れない。なぜ国が誕生する時に、女性の存在が大きくなるのであろうか？なぜ、古代において女性がこのように力強く活躍したのであろうか？その答えは、「飛鳥」にある。

女性が国づくりの原動力

日本で初めての女帝であった推古天皇は、巫女（シャーマン）的要素を備えつつも、仏教の興隆に力を注いだ。従来どおり神々が宿る自然を厚く敬いながらも、新しい仏教を取り込み、いわば神仏が調和した国づくりをはじめた。そして、東アジア世界と正面から向き合った女性でもある。このような女性の力は、次の女帝・皇極（斉明）天皇にも受け継がれている。八十万の神々が坐す霧囿気が残る奥飛鳥には、女帝が雨乞いをしたという伝承が残り、自然と一体となってその能力を発揮した。斉明天皇として再度即位した頃からは、飛鳥の大開発を牽引していくようになり、その記憶は多くの遺跡や景観として現代にも伝わっている。その思想的背景には、仏教と共に神仙思想が融合したものであり、女帝の圧倒的な意思と指導力がここに垣間見える。激動の時代を経験したことが、女帝の心に大きく響いたのであろう。そして、この国づくりを完成させたのが、持統天皇と夫の天武天皇であった。持統女帝は、夫・天武の国づくりの意思を継いで、「藤原京」を完成させ、大宝律令を制定させた。ここに「日本国」を誕生させたのである。

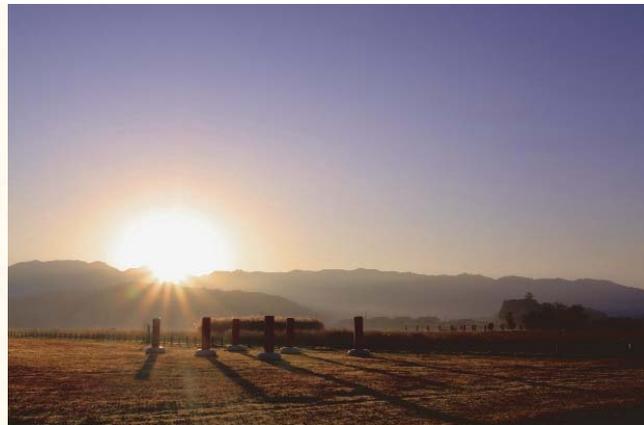
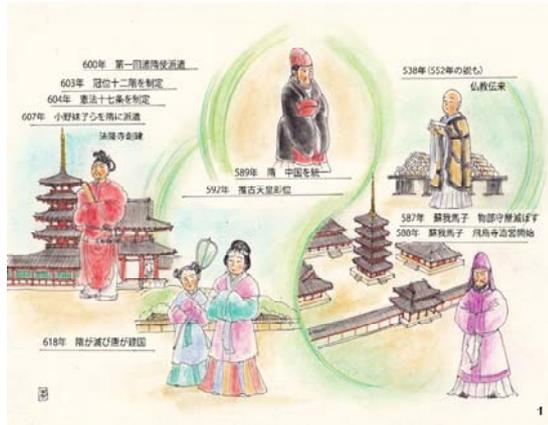
このように、女性が本来持つ神仏と共感する巫女的な要素と、内に秘めた強い力が、国づくりの原動力となった。



女性が輝く仏教興隆と万葉の歌

女性の活躍は、政治だけでなく、宗教や文化の面でもみられる。仏教興隆の先駆者となった我が国最初の僧は、驚くべきことに11才で出家した善信尼と呼ばれる女性であった。彼女は戒律の法を学ぶために百済に渡り、帰国後には、多くの女性を尼僧として得度させた。このことも、古代の女性に巫女的な要素が多く備わっていたことと無関係ではないだろう。

また、『万葉集』には、持統天皇や額田王など、多くの女性歌人たちの歌が載せられている。たとえば古代の中国では、女性の立場になって男性が詩歌を詠むことはあっても、日本のように女性が実質的な文化の担い手とはなり得ていなかった。女性が実際に詩歌を詠み、それが残されていることから、古代日本は女性の時代であったといえるだろう。そこからは、古代の女性たちの生き生きとした声が聞こえてくるようである。



新しい国の“かたち”

このように、飛鳥の女性を語ることから、日本が「国家」として歩み始め、東アジアを通じた世界観が見えてくる。飛鳥時代を牽引したのは女性であった。彼女たちの手によって、政治・宗教・文化の各方面で、我が国の新しい“かたち”が産み出されていった。「日本国」誕生に関わった女性の活躍をみると、世界の中でのこれからの新しい国の“かたち”に、女性の“ちから”が注目される。



(持統天皇 吉野行幸の再現)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	ふじわらきゅうせき 藤原宮跡	国特史	天武天皇と女帝持統天皇合作の都城藤原京の中心をなす宮殿跡。天武が律令国家の確立を目指し建設を始め、持統がその遺志を受け継ぎ完成させた都は、壮大な国家形成の物語を象徴する歴史遺産である。	橿原市
2	もとやくしじあつ 本薬師寺跡	国特史	天武天皇と女帝持統天皇の夫婦合作の寺院跡。皇后（後の持統天皇）の病氣治癒を願って創建を始めた夫の深い愛情と、夫の遺志を受け継ぎ寺院を完成させた妻持統の決意や夫婦愛、絆の強さを感じ取れる。	橿原市
3	まるやま 丸山古墳	国史跡	被葬者の候補として推古天皇が父、欽明天皇の眠る陵墓へ母、 ^{きたしひめ} 堅塩媛を追葬した古墳と考えられている。飛鳥時代を切開いた女帝の母への愛情が偲ばれる。	橿原市
4	うねやま 榎山古墳	国史跡	推古天皇が、若くして世を去った最愛の息子・竹田皇子との合葬を願って追葬された古墳。飛鳥時代を強く牽引した女帝の、母としての愛情と疲弊する民を気遣う慈悲の深さがうかがえる。	橿原市
5	いわふね 岩船	県史跡	^{よこぐちしきせつかく} 横口式石槨の未完成品や占星台ともされる謎の巨大な石造物。近くの牽牛子塚古墳の石槨と類似した形態から斉明女帝のために作製を始めたとも見られることできる。	橿原市
6	よこおおじ 横大路	未指定	推古女帝が造った飛鳥の都から難波を繋ぐ ^{おおさ} 大道である。横大路の開通により大陸との外交窓口であった難波から飛鳥の都にかけて外国使節の往来が活発となり、数多くの先進の文物や情報が将来され、推古女帝の国づくりの大きな原動力となった。	橿原市

7	しもみち 下ツ道	未指定	大和盆地を縦断する直線道路で、その南は巨勢路・紀路へと繋がる。天武・持統合作の都藤原京の建設途上、持統女帝が「藤原京の大路を見に足を運ばれた」と記す道の最有力候補でもある。	橿原市
8	なかみち 中ツ道	未指定	大和盆地を縦断する直線道路で、壬申の乱の広域にわたる戦闘推移を物語る南北道路。来る壬申の乱に備え、大海人皇子とともに妃である後の持統女帝が、大津宮から吉野に移った時の経由地となった飛鳥の嶋宮には中ツ道を通して入られたとみられている。	橿原市
9	やまだみち 山田道	未指定	飛鳥地域の主要な古代官道。推古女帝の外交政策の一環として、遣わされた遣隋使と共に来日した裴世清らが、女帝の宮殿まで通った道。	橿原市 明日香村
10	きじろ (こせじろ) 紀路 (巨勢路)	未指定	下ツ道の南への延長で、紀伊国へと続く古代幹道。真弓丘陵の東辺を南西行し、この沿線上に古墳や寺院・瓦窯跡が見つかっている。斉明・持統女帝はこの道を通り牟呂の湯へと訪れた。	橿原市 高取町 明日香村
11	やまとさんざん 大和三山	国名勝	わが国最古の歌集『万葉集』で多くの歌の題材となった山。特に、額田王を巡る想いを三山に喩えた歌は著名であり、飛鳥時代のリーダー達が詠んだ歌に込められた心模様や活躍した舞台をイメージさせるシンボリック的存在である。	橿原市
12	うねおつたもとじんじや 畝尾都多本神社	未指定	祭神の哭沢女神は延命の神とされ、藤原京の時代に政治を牽引した高市皇子の妃、檜隈女王が夫の延命を願った伝承がある。夫を支える女性達の厚い信仰心を実感できる古社である。	橿原市
13	ふかだいけ 深田池	未指定	推古女帝が大和に造った7つの池の一つで、畝傍池の有力候補地。現存する深田池の広大な水面からは、国土の開発に力を注ぎ、新たな時代を切開いた女帝の偉業が感じられる。	橿原市

14	あすかがわ 飛鳥川	未指定	万葉歌の中でも飛鳥川を詠んだものは多い。この川の流に、男女の思いを託した歌も詠み込まれており、女性の二人の想いを読み込んでいる。	橿原市 明日香村
15	たがれごころのみぞ 狂心渠	未指定	斉明女帝が宮の東山に石垣を築くために石材を運んだ運河。女帝が民の声に反してまで行った大土木工事。	橿原市 明日香村
16	はたみかいじんじや 波多甕井神社	未指定	羽田は、推古女帝が百官を従え、薬狩りを行った地である。男性は鹿を狩り、女性は薬草を摘む薬狩りは端午の節句の起源とも言われている。波多甕井神社周辺の羽内遺跡では、大型の掘立柱建物が検出され、推古女帝の薬狩りとの関連が指摘されている。	高取町
17	さいめいてんのうりょう 斉明天皇陵 おちのおかのえのみさぎ (越智岡上陵)	陵墓	斉明天皇と ^{ほしひとのひめみこ} 間人皇女の墓、 ^{おたのひめみこ} 大田皇女の墓。母と娘がひとつの古墳に合葬され、さらに孫娘の墓を陵前に造るなど、三代つづけての親子愛にあふれている。	高取町
18	たかとりじょうあときるいし 高取城跡猿石	町指定	高取城跡にある飛鳥時代の石造物。斉明女帝が、古代のおもてなしの場の盛り上げ役として造ったオブジェ。	高取町
19	こうえいじんとうせき 光永寺人頭石	未指定	高取土佐街道の光永寺にある飛鳥時代の石造物。斉明女帝が、古代のおもてなしの場の盛り上げ役として造ったオブジェ。	高取町
20	とゆらのみやあと 豊浦宮跡	県史跡	豊浦寺跡の下層にある推古女帝の最初の宮殿。我が国はじめての女帝がここで誕生し、ここから飛鳥時代がはじまった。	明日香村
21	いかづちのおかとうほういせき 雷丘東方遺跡	未指定	推古女帝の宮殿。遣隋使の報告を受けて、東アジア世界を意識して作られた本格的な宮殿。この宮殿において様々な政策を実践した。	明日香村
22	でんあすかいたぶきのみやあと 伝飛鳥板蓋宮跡	国史跡	皇極女帝の宮殿で、その後斉明・持統女帝も同じ地に宮殿を建てた。乙巳の変などの事件が起こり、様々な政策が実施されるなど、「日本国」の形成に邁進した場所。	明日香村

23	あすかいなづみきゆうてんあと 飛鳥稻淵宮 殿跡	国史跡	難波から飛鳥へ還都した時の宮殿「飛鳥川辺行宮」と考えられている。皇極女帝らが一時的に利用した宮殿で、飛鳥川の近くに建てられた。	明日香村
24	しまのみやあと 嶋宮跡	未指定	壬申の乱のおり、ここで天武と持統女帝が過ごした思い出の場所であり、それは子供の草壁皇子に引き継がれた。	明日香村
25	あすかみずおちいせき 飛鳥水落遺跡	国史跡	斉明女帝が我が国で初めて造った漏刻。今に繋がる時間を管理することによって、斉明女帝は人々を支配し、政治体制を充実させた。	明日香村
26	いしがみいせき 石神遺跡	未指定	飛鳥の迎賓館。斉明・持統女帝が、蝦夷や隼人らに対する服属儀礼を須弥山のもとで行うことによって、ここを世界の中心とした。	明日香村
27	さかふないしいせき かめがたせきぞう 酒船石遺跡 (亀形石槽)	国史跡	女帝が自ら実践した天皇祭祀の遺跡。ここで、斉明女帝が様々な祭祀を執行することによって、政まつりごとを行った。	明日香村
28	あすかきょうあとえんち 飛鳥京跡苑池	史跡・名勝	飛鳥宮に付属する庭園。斉明女帝が宮殿に隣接して造り、東アジアの思想の影響を受けて、もてなしの空間を造作した。	明日香村
29	あすかであと 飛鳥寺跡	国史跡	我が国ではじめての本格的な古代寺院。善信尼が興隆に努力した仏教を、古代寺院としてはじめて開花させた。	明日香村
30	さかたであと 坂田寺跡	未指定	善信尼の父である司馬達等が建立した初期寺院。善信尼の仏教への帰依は父の強い思いをつなぐもので、坂田寺はその象徴的な尼寺でもあった。	明日香村
31	かわらであと 川原寺跡	国史跡	斉明女帝の川原宮の跡地に、息子の中大兄皇子が建立した寺院。亡き母のために、息子が創建するなど、親子愛の絆の強さを感じさせる。	明日香村
32	きんめいてんのうりょう 欽明天皇陵 ひのくまのさかあいのみささぎ (檜隈坂合陵)	陵墓	仏教公伝時の欽明天皇の御陵。被葬者の候補として推古天皇が父、欽明天皇の眠る陵墓へ母、堅塩媛を追葬した古墳と考えられている。飛鳥時代を切り開いた女帝の母への愛情が偲ばれる。	明日香村

33	けんごしづか 牽牛子塚古墳・越塚御門 古墳	国史跡	斉明天皇と間人皇女の墓、大田皇女の墓。斉明女帝の御陵で八角形である。母と娘がひとつの古墳に合葬され、さらに孫娘の墓を陵前に造るなど、三代つづけての親子愛にあふれている。	明日香村
34	きびひめおうのはか 吉備姫王墓	陵墓	欽明天皇陵に隣接する墓。皇極女帝の母である吉備姫王の墓とされている。墓域内には、付近から出土した猿石が4体安置されており、斉明女帝か造らせた石造物とされている。	明日香村
35	てんむ じとうてんのうりょう 天武・持統天皇陵 (ひのくまのおおうちのみささぎ) (檜隈大内陵)	陵墓	天武天皇と持統天皇の合葬陵。夫の天武と共に壬申の乱を乗り越え、国造りに励んだ夫婦が、同じ御陵に埋葬されている。夫婦の強い絆を感じられる。	明日香村
36	いもとうげ 芋峠	未指定	飛鳥と吉野を結ぶ古道。壬申の乱直前の吉野行幸で、夫婦の絆を強くした。持統女帝は在位中、夫の面影を求めて芋峠を超えて何度も吉野へ訪れた。	明日香村 高取町
37	あすかかわかみにいます 飛鳥川上坐 うすたきひめのみこと 宇須多伎比売命神社	重文景	飛鳥川上流域にある神社。宇須多伎比売命と応神天皇・神宮皇后を祀る。皇極女帝が雨乞いをしたと伝えられる地に立ち、南無天踊りを今に伝える。	明日香村
38	めぶち 女淵	重文景	飛鳥川源流域に位置し、女神が棲んでいるとされる場所。皇極女帝が雨乞いをした「南淵の河上」の場所とも伝えられている。	明日香村
39	なもとおど 南無天踊り	未指定	雨乞い神事。皇極天皇の雨乞いにはじまったものを神事として現在まで受け継がれている。また、飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社にあった南無天踊りの絵馬も残されている。	明日香村
40	たかまつづかこふんへきが 高松塚古墳壁画	国宝	飛鳥美人に代表される極彩色の人物壁画が描かれており、当時の采女の姿など、具体的に復原できると共に、万葉の世界を彷彿させる資料である。	明日香村

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧①

1 藤原宮跡



4 植山古墳



2 本薬師寺跡



5 岩船



3 丸山古墳



6 横大路



構成文化財の写真一覧②

7 下ツ道



10 紀路 (巨勢路)



8 中ツ道



11 大和三山



9 山田道



12 畝尾都多本神社



構成文化財の写真一覧③

13 深田池



16 波多甕井神社



14 飛鳥川



17 斉明天皇陵 (越智崗上陵)



15 狂心渠



18 高取城跡猿石



構成文化財の写真一覧④

19 光永寺人頭石



22 伝飛鳥板蓋宮跡



20 豊浦宮跡



23 飛鳥稻淵宮殿跡



21 雷丘東方遺跡 (出土土器)



24 嶋宮跡



構成文化財の写真一覧⑤

25 飛鳥水落遺跡



28 飛鳥京跡苑池



26 石神遺跡



29 飛鳥寺跡



27 酒船石遺跡 (亀形石槽)



30 坂田寺跡



構成文化財の写真⑥

31 川原寺跡



34 吉備姫王墓



32 欽明天皇陵（檜隈坂合陵）



35 天武・持統天皇陵（檜隈大内陵）



33 牽牛子塚古墳・越塚御門古墳



36 芋峠



構成文化財の写真⑦

37 飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社



40 高松塚古墳壁画



38 女淵



39 南無天踊り

